

**令和3年度地区別需給情報連絡協議会
アンケート結果（5～7月）
【全国概要】**

**令和3年9月
林野庁**

目次

1. 原木需給の現状及び見通し p.3
2. 製品需給の現状及び見通し p.4
3. 国産材の供給及び利用に係る中長期的な取組 p.5

※アンケート結果全体については、林野庁ウェブサイト（下記URL）に掲載
<https://www.rinya.maff.go.jp/j/mokusan/ryutsu/kyougikai.html>

■アンケート回答者数

地区	主な業種 ※1							計	
	素材生産 事業者	木材加工 事業者	木材流通 事業者	木材利用事業者			苗木生産 事業者		事業者 団体
				建設・ プレカット	製紙・ パルプ	木質バイオ マス発電			
北海道	5	5	5	2	1	2	1	6	27
東北	5	10	8	3	0	1	3	4	34
関東	3	12	14	3	2	1	3	11	49
中部	2	10	11	2	2	1	4	5	37
近畿中国	3	6	7	4	1	1	0	5	27
四国	3	6	8	1	2	1	3	2	26
九州	4	12	6	3	1	1	3	7	37
計	25	61	59	18	9	8	17	40	237

（うち上記3の回答者数） ※2

地区	供給側 （素材生産・ 木材加工 事業者）	利用側 （木材流通・ 木材利用 事業者）	計
北海道	10	10	20
東北	17	10	27
関東	17	17	34
中部	18	8	26
近畿中国	10	11	21
四国	9	12	21
九州	17	10	27
計	98	78	176

※1：これらの業種に加え、全国6森林整備センター及び7森林管理局から回答を得た。

※2：主な業種の計とは必ずしも一致しない（供給側・利用側の両方に回答した場合や、木材流通事業者が供給側として回答した場合などがあるため）。

1. 原木需給の現状及び見通し (2021年5～7月時点から今後3か月間程度)

・ 原木の需給に係る川上から川中の事業者の回答について、

- ① **価格** : 現状は、売主の素材生産事業者及び木材流通事業者、買主の木材加工事業者ともに「やや上昇」及び「上昇」が8割以上を占めた。今後の見通しも同様の傾向だが、「上昇」の割合が素材生産事業者及び木材流通事業者では減少したのに対し、木材加工事業者ではやや増加した。
- ② **量** : 現状は、いずれの業種も「例年並み」が最も多いが、素材生産事業者で7割強を占めた一方、木材流通事業者及び木材加工事業者では減少した。木材加工事業者では「やや減少」及び「減少」が3割強を占めた。今後の見通しは「横ばい」が多いが、素材生産事業者では「やや減少」及び「減少」の割合が特に増加した。

【現状】: 例年(過去3年間の同時期の平均)と比べた現状 / 【見通し】: 現状と比べた今後3か月間程度の見通し / %: 回答数割合(無回答又は取扱がない場合は母数に含めない)

素材生産事業者 (売主)

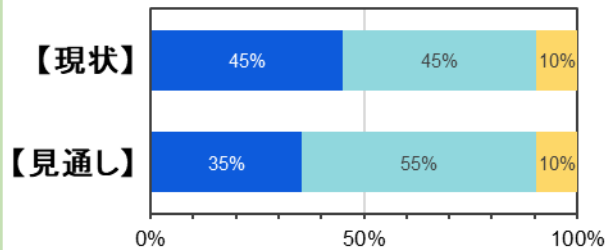
木材流通事業者 (売主)

木材加工事業者 (買主)

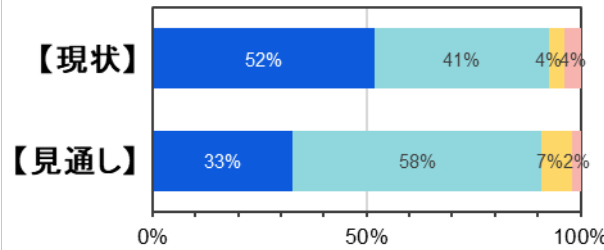
① 価格 >>

- 上昇
- やや上昇
- 例年並み(現状)/横ばい(見通し)
- やや下落
- 下落

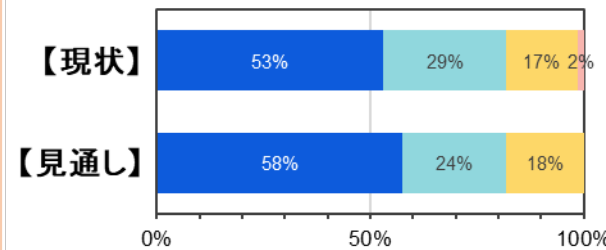
① 原木販売価格



① 国産材原木販売価格



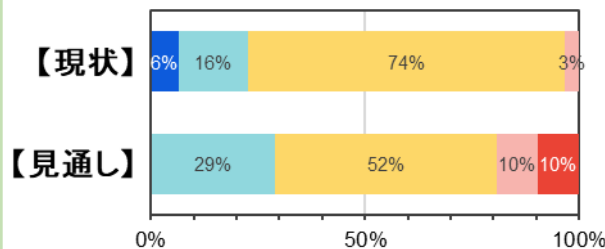
① 国産材原木仕入価格



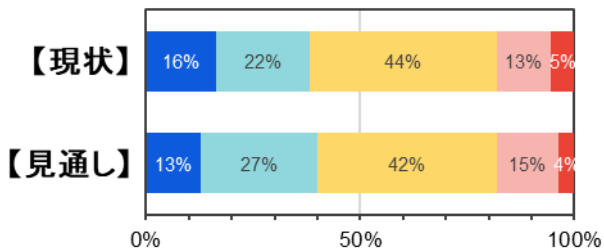
② 量 >>

- 増加
- やや増加
- 例年並み(現状)/横ばい(見通し)
- やや減少
- 減少

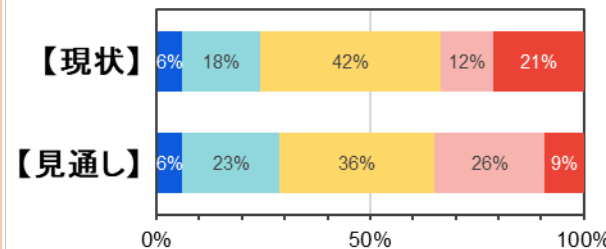
② 原木伐採量



② 国産材原木販売量



② 国産材原木仕入量



2. 製品需給の現状及び見通し (2021年5～7月時点から今後3か月間程度)

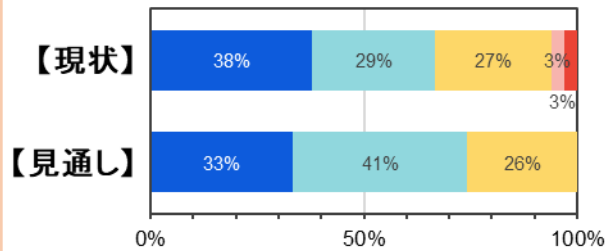
・ 木材製品の需給に係る川中から川下（建設分野）の事業者の回答について、

- ① **価格**：現状は、「やや上昇」及び「上昇」が売主の木材加工事業者で約7割を占めたのに対し、売主の木材流通事業者及び買主の木材利用事業者ではその割合がより高く、特に輸入材製品では「上昇」が8割を占めた。今後の見通しも同様の傾向だが、木材加工事業者及び木材流通事業者では「やや上昇」がより増加した。
- ② **量**：現状は、木材加工事業者で「やや増加」及び「増加」が過半数を占めたが、木材流通事業者及び木材利用事業者ではその割合は下がり、「やや減少」及び「減少」が国産材製品で3～4割、輸入材製品では6～7割を占めた。今後の見通しは、「やや増加」及び「増加」が減少し、「横ばい」が増加した。

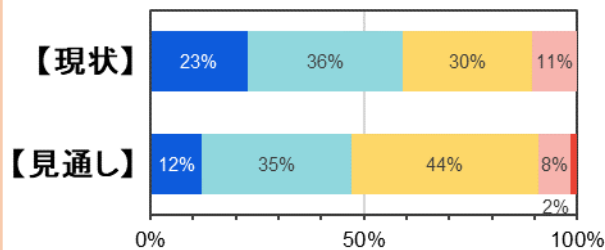
【現状】：例年（過去3年間の同時期の平均）と比べた現状／ 【見通し】：現状と比べた今後3か月間程度の見通し／ %：回答数割合（無回答又は取扱がない場合は母数に含めない）

木材加工事業者（売主）

① 製品販売価格



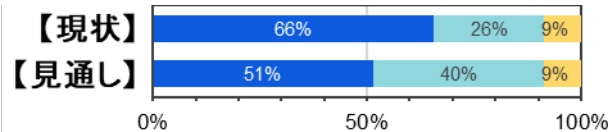
② 製品販売量



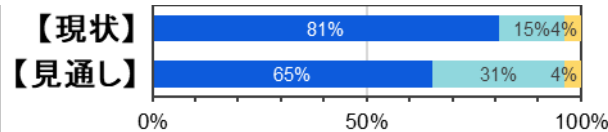
木材流通事業者（売主）

※国内加工品を含む

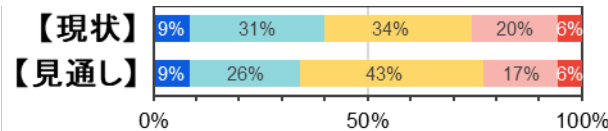
① A) 国産材製品販売価格



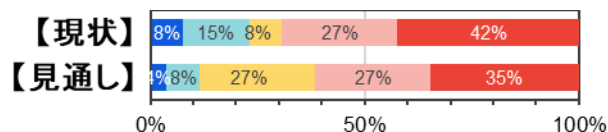
B) 輸入材製品販売価格※



② A) 国産材製品販売量



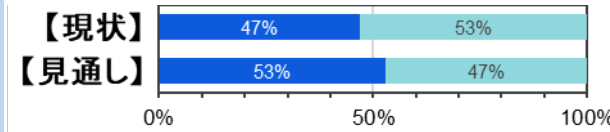
B) 輸入材製品販売量※



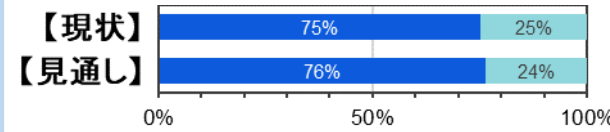
木材利用事業者（買主）

※国内加工品を含む

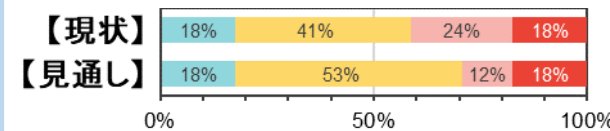
① A) 国産材製品仕入価格



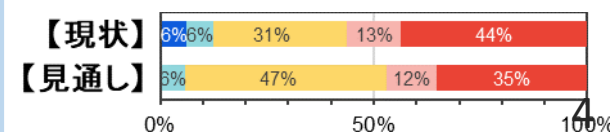
B) 輸入材製品仕入価格※



② A) 国産材製品仕入量



B) 輸入材製品仕入量※

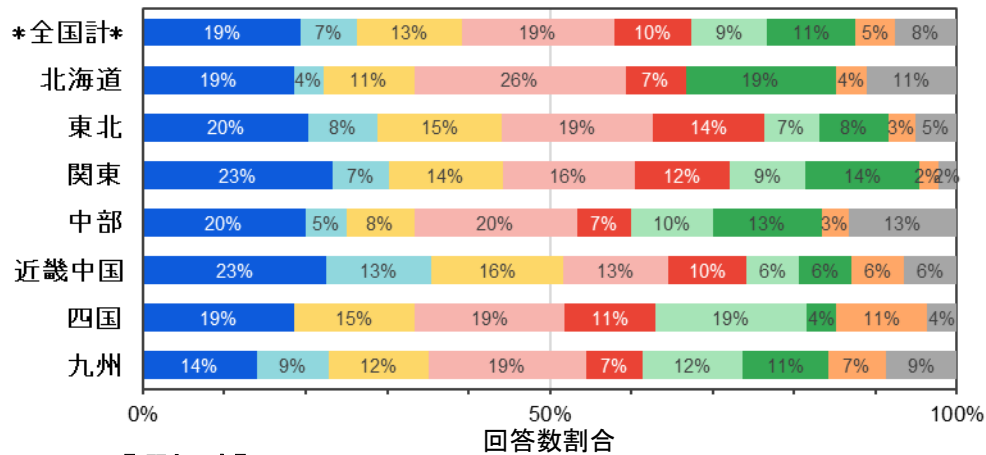


3. 国産材の供給及び利用に向けた中長期的な取組（1）供給側

- ・ 国産材を供給する事業者においては、自らの立場から中長期的に実施していききたい取組として選択した回答のうち、「生産量の増大」や「生産施設の整備・拡大」、「労働力の確保」が回答数全体の約5割を占めた。
- ・ 一方、これらの取組を実施する上での課題として、「資源（素材生産の施業地・原木）の確保が難しい」、「適した労働力が不足している」が回答数全体の約6割を占めた。
- ・ なお、上記の傾向は各地区に共通しており、特に労働力の確保が主要な課題となっていることが明らかになった。

① 国産材（原木及び製品）の供給にあたり、自らの立場から中長期的にどのような取組を実施していききたいと考えるか（既に実施している場合を含む）。

<選択肢から複数選択式>

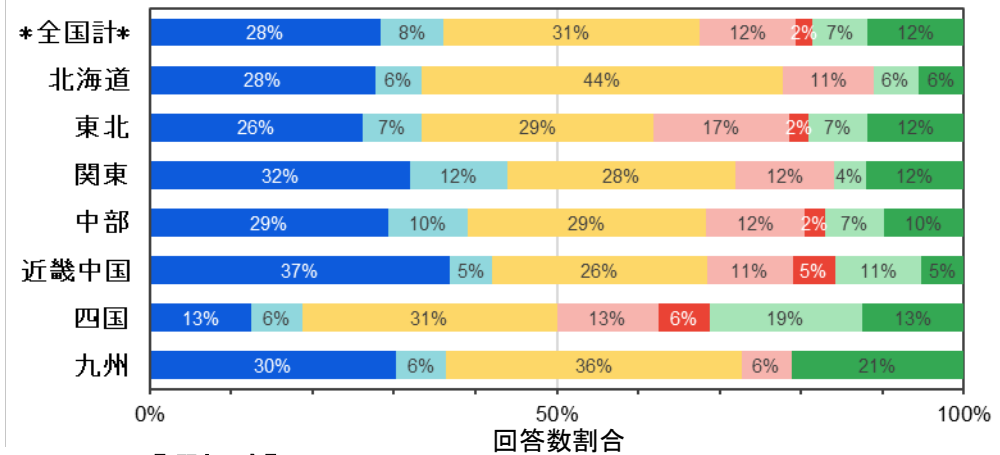


【選択肢】

- 生産量の増大
- 生産品目の転換
- 生産施設の整備・拡大
- 労働力の確保
- 品質管理等の技術の向上
- 協定等による安定取引の増大
- 生産・流通の効率化によるコスト削減
- 在庫の強化
- サプライチェーン関係者間の連携の強化

② 左の取組を実施する上で、どのような課題があると考えるか。

<選択肢から複数選択式>



【選択肢】

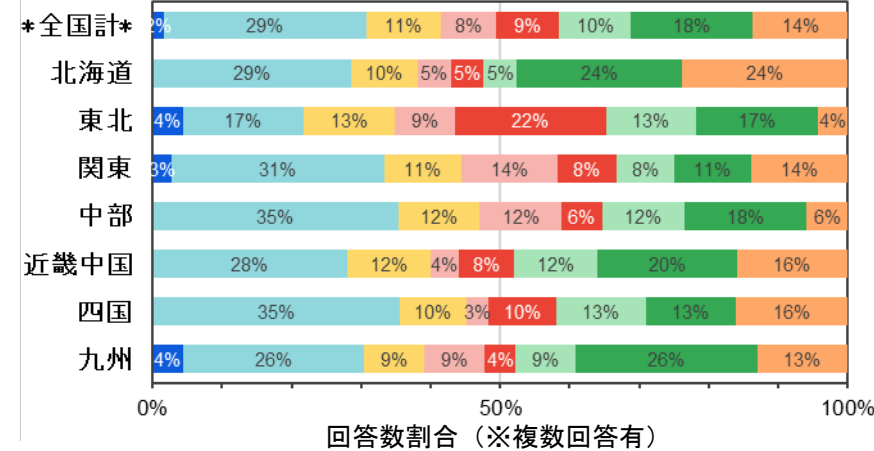
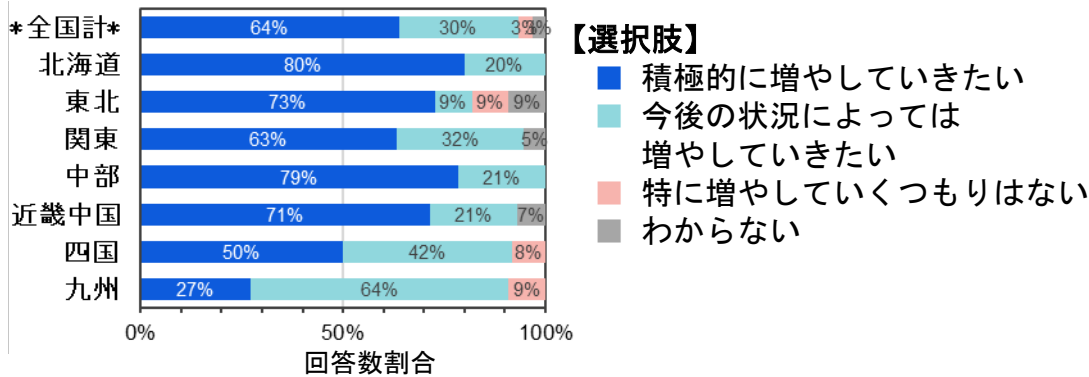
- 資源（素材生産の施業地・原木）の確保が難しい
- 資金の確保が難しい
- 適した労働力が不足している
- 販売価格が低い
- 適切な取引先が見つからない
- 中長期的な（自らの）供給の見通しが立てられない
- 中長期的な需要の見通しが立てられない

3. 国産材の供給及び利用に向けた中長期的な取組（2）利用側

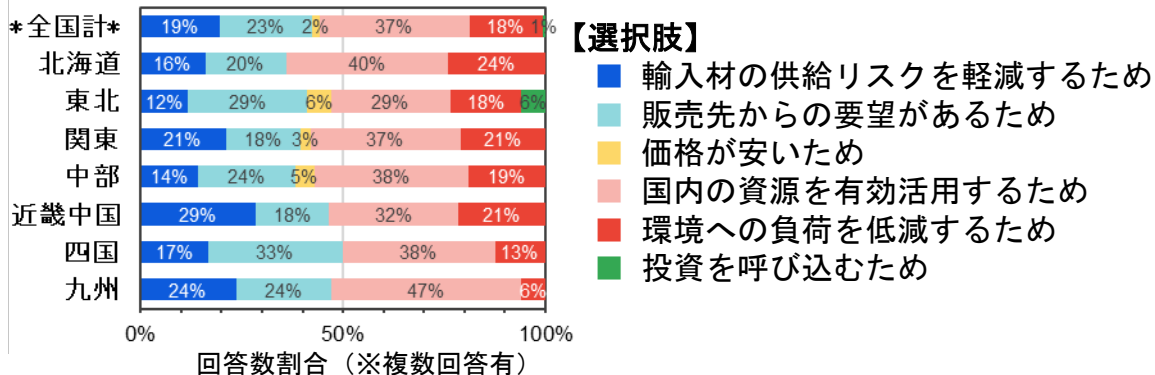
- 国産材を利用する（取扱う）事業者においては、回答者の9割以上が中長期的に国産材の利用（取扱い）を「積極的に増やしていきたい」又は「今後の状況によっては増やしていきたい」と回答した。その理由としては「国内の資源を有効活用するため」が最も多く（回答数全体の約4割）、「販売先からの要望があるため」「輸入材の供給リスクを軽減するため」「環境への負荷を低減するため」がそれに続いた（それぞれ約2割）。
- 一方、国産材を利用する上での主な課題として、「国産材は必要な量の確保が難しい」（回答数全体の約3割）、「中長期的な仕入れの見通しが立てられない」（約2割）が挙げられ、供給面の課題が指摘された。

① 中長期的に国産材の利用（取扱い）を増やしていきたいと考えるか。

② 国産材の利用にあたって、どのような課題があると考えるか。 <選択肢から複数選択式>



→ 「積極的に増やしていきたい」又は「今後の状況によっては増やしていきたい」と回答した理由 <選択肢から複数選択式>



- 【選択肢】
- 適切な取引先が見つからない
 - 国産材は必要な量の確保が難しい
 - 国産材は必要な品質の確保が難しい
 - 国産材は必要な部材（製品）の確保が難しい
 - 仕入価格が高い
 - 販売価格が安い
 - 中長期的な仕入れの見通しが立てられない
 - 中長期的な需要の見通しが立てられない